



## JDLA学会・学術講演会ならびに南大阪地域連携フォーラムの実施

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2010-08-12 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 田村, 武志 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10466/10958">http://hdl.handle.net/10466/10958</a>

# JDLA学会・学術講演会ならびに南大阪地域連携フォーラムの実施

大阪府立大学 総合情報センター

田村武志

tamura@center.osakafu-u.ac.jp

## 1. はじめに

平成14年12月9日、日本ディスタンスラーニング学会(JDLA: Japan Distance Learning Association)主催の学術講演会が東京(上智大学)、静岡(グランシップ(メイン会場))および大阪(大阪府立大学)の3ヶ所をISDN回線で結んで行われた。当日は、日本ディスタンスラーニング学会らしく、3会場をネットワークで結んだバーチャル学会となった。また、本JDLA学会学術講演会に引き続き、12月10日には「南大阪地域連携フォーラム」を併催した。本フォーラムは、大阪地区独自の企画によるもので、講演会などと並行してメーカ展示が行われた。本稿では、第1日目のJDLA学術講演会と2日目のフォーラムの実施状況について報告する。

## 2. JDLA学術講演会

JDLA学術講演会のプログラムを表1に示す。表1に示すように、磯田会長の挨拶から始まり、基調講演、学会発表、パネル討論が遠隔で行われた。学会発表では、10件の論文発表が行われた。また、パネル討論では、「e-Learningにおける教育改革とは何か」と題して東京都立科学技術大学・石島学長の司会により、東京会場2名、静岡会場2名、大阪会場2名のパネリストが参加し、活発なディスカッションが行われた。また、9日は3会場においてメーカによる遠隔教育やe-Learning関連のデモや機器の展示が行われた。

表1 JDLA学術講演会のプログラム

テーマ	時間	発表者
開会の辞	10:00	JDLA 会長 磯田 浩
基調講演 「Skill Standard と e-Learning」	10:10	東京都立科学技術大学学長 石島辰太郎
研究発表セッション1 (静岡セッション)	10:50-12:10	セッション・オーガナイザ: 八巻直一(静岡大)
「ディスタンスラーニングの静岡大学での取り組み」	10:50	大島純、渥美清隆、八巻直一(静岡大) 牧野弘宜(株式会社 TOKAI)
「社会人向けのベンチャービジネス教育における e-Learning の活用」	11:10	湯瀬裕昭、影山喜一(静岡県立大大学院)
「看護系大学院(修士課程)の分担授業でのIBDL 方式試用の事例」	11:30	華表宏有(聖隷クリストファー大)
「Web を用いた SCM ゲーム」	11:50	高井英造、山本裕之(株式会社フレーム ワークス)、 八巻直一、鈴木巧(静岡大)
研究発表セッション2 (都内大学セッション)	13:10-14:10	セッション・オーガナイザ: 湯瀬裕昭(静岡県立大大学院)
「インテリジェント・スペースを用いた遠隔教育コン テンツ作製システム」	13:10	梅田大雄、陳大勇、山口亨(東京都立科 学技術大)
「NotePC を用いた大学内における印刷環境の構 築と運用」	13:30	天野直紀、橋本洋志(東京工科大)

テーマ	時間	発表者
「FPGA と JTAG を用いたデジタル回路実験のための遠隔教育システム」	13:50	稲吉久範、朝香雪夫、泉宏志、村越英樹(東京都立科学技術大)
<b>研究発表セッション 3</b> (コンテンツセッション)	14:10-15:10	セッション・オーガナイザ: 山口亨(東京都立科学技術大)
「研究者保有シーズの利用を促進する Web アプリケーションの設計」	14:10	吉川茂雄、戸谷剛、永田晴紀、工藤勲(北海道大大学院)
「e-ラーニング・コンテンツ台本製作技法(線形代数の場合)」	14:30	池辺八洲彦(明星大)、蔡東生(筑波大)、浅井信吉(会津大)、宮崎佳典(静岡産業大)、池辺淑子(東京理科大)
「自然言語対話システムによる英作文自動添削システムについて」	14:50	徳田尚之、鐘 慶、陳 亮、平木憲明(株式会社サン・フレア)
休憩	15:10-15:40	
<b>パネル・ディスカッション</b> (3 会場遠隔会議形式) 「e-Learning における教育改革とは何か」	15:40-16:40	モデレータ: 石島辰太郎(東京都立科学技術大)【静岡会場】  パネリスト:【静岡会場】 橋本洋志(東京工科大)・藤井雅人(日立電線(株)) 【東京会場】 大川恵子(慶應義塾大)・大嶋淳俊(UFJ 総研) 【大阪会場】 中野秀男(大阪市立大)・田村武志(大阪府立大)
<b>閉会の辞</b>	16:45	

### 3. 南大阪地域連携フォーラム

本フォーラムは、大阪地区独自の企画によるもので、「ユビキタス・ネットワーク社会における教育・学習環境」—大学・企業および地域社会が連携する広域 e-Learning—と題して対面と遠隔による講演会が行われた。また、デモやメーカ展示も9日に引き続き行われた。フォーラムの開催主旨は次のとおりである。

IT革命の進展とともに、ユビキタス・テクノロジーが注目され、近未来には、ユビキタスネットワーク社会が構築される。「ユビキタス」(Ubiquitous)とは、ラテン語で「いつでも、どこでも、普遍的に存在する」という意味である。また、ユビキタス・ネットワーク社会は、ネットワークにより個人が、いつでも、どこからでも、だれとでもコミュニケーションでき、遠隔地から各種のデジタル機器が操作でき、容易に利用できる社会をいう。テクノロジーとして IPv6 や次世代モバイル、情報家電などがベースになる。

本フォーラムでは、近未来に展開されるであろうこのようなユビキタス・ネットワーク社会を背景に、教育・学習環境がどう変わるのか、ということにスポットを当て考えるフォーラムとした。

ユビキタス・ネットワーク社会により、我々の最も身近な教育・学習環境は大きく変化すると思われる。そして大学、企業、地域社会および家庭(個人)が連携し、かつ一体化した新しい教育・学習環境の枠組みが形成されると思われる。

南大阪地域連携フォーラムでは、このようなユビキタスネットワーク社会の到来を予測し、遠隔教育や e-ラーニングに関する先端的な展示とセミナーが行われた。セミナーのテーマ、スピーカおよび方法を表2に示す。

表2 フォーラムにおけるセミナーのプログラム

テーマ	時間	スピーカー	方法
米国に学ぶディスタンスラーニングの活用	11:00～11:30	米国・スタンフォード大学 CDR 佐藤文博教授	IPネットワークで接続
講義記録・配信システム Up Point について	13:00～13:30	富士通(株) 高本茂氏	
移民国の英語教育の実態	13:40～15:00	オーストラリア・プリンダース大学 Ms.Bonnie Cothren Mr. John Murphy	
Presentation Upskill	15:10～15:50	オーストラリア・南クイーンズランド州立大学(USQ) Dr.Aniko-Honhoc Mr.John Dakins 大阪府立大学工学研究科 大学院生 齋藤, 石川	遠隔講義デモ授業 ISDN で接続
e-ラーニング最前線	16:00～16:50	UFJ 総合研究所 主任研究員 大嶋淳俊氏	東京・大手町の日立 電線本社と会場を ISDN回線で接続

写真1に米国・スタンフォード大学, CDR・佐藤教授の講演の様子を示す。スタンフォード大学とは、100Mbpsの光ファイバー(Bフレツツ100)を使って実施した。従来、国内および海外とはISDN回線で実施していたが、IPネットワークで接続するのは今回が初めてであった。回線の安定性という点で多少、心配したが、ネットワークも安定しており、ISDN3回線(384Kbps)以上のクォリティ(品質)を維持することができ、すばらしい講演となった。

総合情報センターU フォールの大スクリーンに映し出される佐藤教授の映像は、迫力があり、距離をまったく感じさせない臨場感ある講演となった。

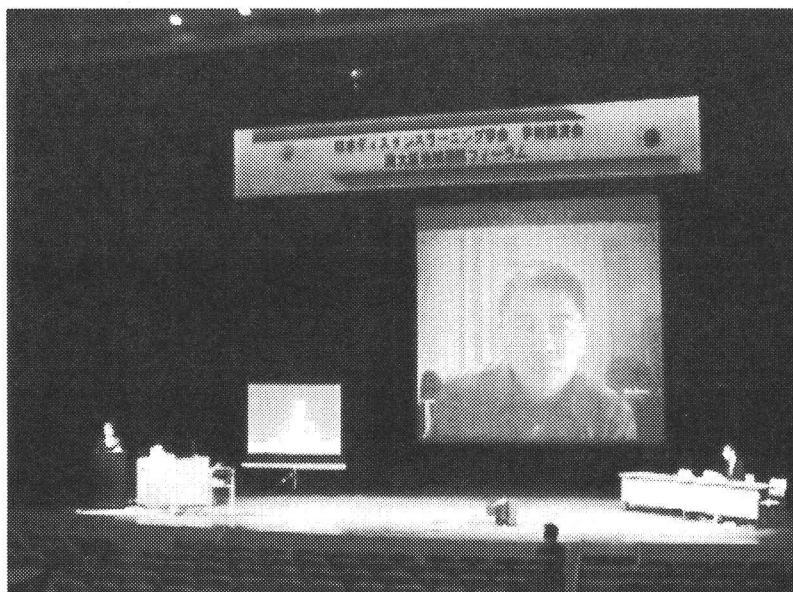
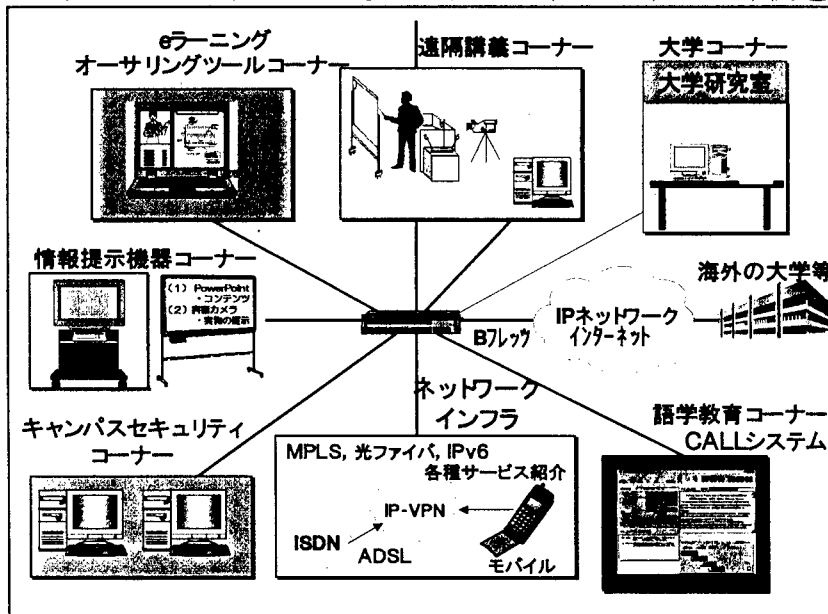


写真1 スタンフォード大学 CDR 佐藤教授による遠隔講演  
(高速インターネットを利用)

### 3. メーカー展示・デモ

教育関連各社、通信キャリアおよび大学研究室が、それぞれ得意分野の先端テクノロジーをもちより、協調しながら、全体として近未来の「ユビキタス・ネットワーク社会における教育・学習環境」が見えるように工夫した展示を実施した。参加企業は20社であり、これに、関連の研究を実施している大学の4研究室



研究室が加わった。展示方法については、事前に展示各社の担当者と企画会議を開催し、参加者に分かりやすい展示を行うように心がけた。すなわち、従来、よく行われるような各社ごとに、それぞれのプロダクトを展示するのではなく、フォーラムが掲げるテーマの下に各社が分担、協調して一般の方にもわかりやすい展示を行った。(図1)。

図1 展示コーナーのネットワーク構成とテーマ

内容は以下のとおりである。

- 大学キャンパスネットワーク、セキュリティソリューション
- 教室におけるプレゼンテーション環境、操作環境、遠隔講義支援システム
- 大学と家庭(書斎)を結ぶ次世代学習環境、家庭内 LAN
- モバイル学習環境、個人の学習環境
- 最先端・統合型 e-Learning システム、LMS(Learning Management System)
- 教育コンテンツの創成・編集・加工・蓄積・配信、VOD サーバ、インターネット放送
- リアルタイム遠隔講義システム、マルチキャスト
- MPLS テクノロジー、IP-VPN、無線 LAN、IPv6などネットワークインフラ
- 先端語学教育システム、次世代 CALL システム

写真2、写真3にメーカー展示およびデモの様子を示す。写真4にオーストラリア・フリンダース大学(NPO 法人・新国際化推進協会)の語学教育用 e-ラーニングシステムと教材の展示デモの様子を示す。



写真2 展示・デモの様子

写真3 最新の編集機器も展示された



写真4 オーストラリア・フリンダース大学の e-ラーニングデモの様子

#### 4. 参加企業および後援

出展参加企業は20社であった。参加企業名を表3に示す。

表3 出展参加企業名

出展企業名	出展企業名
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ NEC ソリューションズ(株)</li> <li>■ NTT 西日本(株)</li> <li>■ (株)KDDI</li> <li>■ NPO 法人新国際化推進協会</li> <li>■ 住生コンピューターサービス(株)</li> <li>■ (株)デジタルナレッジ</li> <li>■ 東芝 IT ソリューション(株)</li> <li>■ 東通産業(株)</li> <li>■ 凸版印刷(株)</li> <li>■ 日立電線(株)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ VTV ジャパン(株)</li> <li>■ 富士通(株)</li> <li>■ 松下電器産業(株)</li> <li>■ 丸善(株)</li> <li>■ 三谷商事(株)</li> <li>■ ダイキン工業(株)</li> <li>■ (株)ネットワーク</li> <li>■ エルコム(株)</li> <li>■ (株)アートスタッフ</li> <li>■ TISソリューションビジネス(株)</li> </ul>

また、大阪府ほか、近畿経済産業局、堺市、堺商工会議所、NPO 法人・南大阪地域大学コンソーシアムなど多数の機関から後援をいただいた。

## 5. 実施結果

第1日目,2日目ともアンケート調査を行った.第1日目のJDLA学会講演会および発表については,回答者31名中,44%の人が「ためになった」と応えている.しかし,一方では,50%の人が「何とも言えない」と応えている.これは,当日,ビデオ会議システムのトラブルが発生し,しばしば発表が中断したことが影響しているものと思われる.また,遠隔教育と対面による講演との比較では,トラブルの影響で57%の人が「対面の方が良い」と答えている.さらに,今後このような講演や遠隔講義があった場合,参加するかどうかを尋ねたところ,57%の人が「参加する」としている.メーカ各社の展示については,58%の人が「大変興味深かった」としている.

2日目の南大阪地域連携コンソーシアムでは,35名がアンケートに答えてくれた.そのうち47%の人が「ためになった」と答えている.一方,53%の人が「何とも言えない」と応えている.また,遠隔教育と対面による講演との比較では,75%の人が「両者ともほとんど変わらない」としている.今後このような講演や遠隔講義があった場合,参加するかどうか,という問いに対しては,75%の人が「参加する」としている.2日目は,ビデオ会議システムのトラブルもなく,高画質な画面でスタンフォード大学やUSQ,東京大手町の日立電線本社と遠隔講演ができたため,高い評価となった.また,メーカ各社の展示については,65%の人が「大変興味深かった」としている.

大学の研究室の展示については,興味深かったと答えた人が約30%であった.大学研究室の展示では,説明員からもう少し詳しい説明が聞きたかった,という意見が多かった.

### 謝辞:

2日間の学会講演会およびフォーラムでは,たくさんのメーカ各社から賛同をいただき,機器の展示・デモをいただいた.ご協力をいただいたメーカ各社の方々に深く感謝を申し上げます.また,大阪府ほか,近畿経済産業局,堺市,堺商工会議所,NPO 法人・南大阪地域大学コンソーシアムなど多数の機関からも後援をいただいた.この場をお借りして感謝を申し上げます.さらに,講演を快く引き受けてくれた講師の方々,および本イベントの実施を陰で支えてくれた学内関係者の方々に感謝を申し上げます.